



新幹線新富士駅の開業に合わせ
新銘菓を開発



来春の新幹線新富士駅の開業に
合わせて、富士市を代表するお菓
子がつくられます。
これは、富士市観光土産品促進
交流会の中の統一銘菓開発委員会
に属する十二のお菓子屋さん共
同開発したもので、若林さんはそ

わか ばやし さとし
若林 智さん

鷹岡本町2(40歳)

「素材の持ち味を生かし、本当
においしいといわれることに重点
を置いた」という自信作です。
「お菓子を通して富士の文化・
産業を紹介し、社会に少しでも貢
献できれば…」と考えるフアイト
マン。周囲からは「年の割には気
が練れている」という声も。
これからの心配は、売れゆき。
「皆さん、どうぞよろしく」と
マーシャルも忘れませんでした。

まぢか

我がまちを語る



高橋久男さん

浮島町1(77歳)

純朴で人情に厚い人々
私が子供のころの浮島は専業農
家ばかりで、人々の生活は随分大
変でした。
浮島沼は腰までつかって田植え
をするようなところがあり、台風
が来ると湖となって、その水が引
くと稲は株さら流れていくような

状態でした。笑い話のようですが、
台風が去ると稲が移動し、隣の田
んぼの稲になってしまったという
こともあったくらいです。ですから、
米がまともに収穫できたのは三年
に一度ぐらいでした。
このように農業中心の生活から
培われた人々の人柄は純朴で、人
情に厚く、隣近所のつきあいを大
切にする風土があります。
また、新興住宅地などがないの
で、住んでいる人があまり変わら
ないのも特徴の一つです。
将来は自然環境と昔からの人情
を保ちながら、会社や住宅をふや
し、もう少し活気のあるまちにな
ればと考えています。



茶摘みうたを伝える

藤井志んさん
(浮島町三)

高木とらさん
(浮島町二)



鈴木晶項さん(浮島町)

青空市へいらっしやい

あの人この人こんなこと



沼津線沿い、東公民館の西方に
毎週土曜日の夕方、市が立ちます。
浮島青空市といい、地場産の野菜
くだものなどが豊富に並べられま
す。運営しているのは地域の農家
十軒。鈴木さんはその実行委員長
です。「野菜はその日の朝とった
新鮮なもので、値段も格安。三島
や沼津から来る人もあるよ」と張
り切っています。

浮島地区はお茶どころとしても
有名。茶農家に生まれ育った藤井
さんと高木さんは、今は知る人も
ない茶摘みうたと茶もみうたの伝
承者です。二人共、幼いときに聞
いたうたを覚えていたもので、歌
うと昔を思い出し、昔話に花が咲
くとか。老人会ではほかの人も覚
え、東小の児童の前で披露したこ
ともあります。



焼き芋大会
東小学校

十一月二十六日に東小学校で浮
島まつりが行われました。これは、
子供たちが六月に植えて育てたサ
ツマイモの焼き芋大会です。
芋は一人に二つ三つ行き渡り、
収穫を実感した子供たちは大満足。
また、焼いている間も、子ども
たちは手づくりの竹や布・紙のお
もちゃのお店を出したり、歌やゲ
ームを楽しみました。